

2026 年 3 月期 第 3 四半期 決算説明会 質疑応答

2026 年 2 月 6 日
株式会社ジェイテクト

Q1. 第 3 四半期(10～12 月)の実績をどのように評価しているか？

A1. 社内計画に対しては順調に進捗したと評価している。
売上はほぼ想定通りだったことに加え、昨年は客先都合等で急に生産ラインがストップする等生産が安定しなかったが、今年は比較的安定していることもあり、予定通りに原価改善活動を進め、効果の刈り取りができています。

Q2. 北米タスクフォースチーム(以下：TFT)の活動は順調に進捗しているのか？

A2. 大きく 2 つの活動を進めており、内製費改善は計画通り進捗し、ロスコスト削減に寄与している。加えて、価格適正化の活動を進めており、取引先の皆様に価値を認めていただく活動が想定よりも効果を出している。
関税対応が軌道に乗れば、来年以降の北米事業は黒字が定着する見込みであり、現地スタッフの努力には非常に感謝している。

Q3. 第 3 四半期は関税回収があまり計上されていないが、想定より遅れが出ているのか？

A3. 主要顧客とは合意に至っているが、エビデンス提示等のペーパーワークが複雑で処理に時間を要しており、実際の回収・損益への計上に遅れが出ている。
一方で、市販向けベアリングや工作機械は値上げを実施しており、回収が進んでいる。

Q4. 政策保有株式売却により生み出された資金はどのように活用する予定か？

A4. 中計で「政策保有株式のゼロ化」を掲げており、キャッシュアロケーションにも資金増として織り込み済み。計画に沿って企業価値向上のために活用していく。

Q5. 北米 Automation Direct 社の業績と、顧客業種の構成は？

A5. 関税影響を心配していたが、売上は順調に伸びており、倉庫拡張等の投資も行っている。
ターゲットは中規模の企業であり、購買権限を持つエンジニアに PLC とその周辺機器をセットで買ってもらえるような仕掛けをしている。

Q6. 今年度の第 4 四半期の事業利益が、前年度の第 4 四半期より低い理由は？

A6. 前年度の第 4 四半期は、価格は正・インフレ回収の効果が期末に集中し大きく利益が積み上がったが、今年度は回収等が前倒しで実施できている。そのため第 4 四半期だけで見ると事業利益が低く見えるが、年間通してみると十分に効果が積み上がっている。

Q7. 中計最終年度に向け、社内ではどんな議論をしているか？

- A7. 中計最終年度は「総仕上げの年」と位置付けており、掲げた施策をやり切ることが必要。
地域別には、欧米の構造改革、成長地域であるインドへの投資を実行していくことに加え、
市場環境が大きく変わった中国・アセアンは戦略を具体化すべく検討中。
事業別には、「矢羽根の活動」と呼ぶ中計達成のための施策の進捗を1つ1つ確認し、遅れ
が生じている施策はどのように挽回していくかを議論している。
加えて、来期も多くの新規プロジェクトを予定しているため、「生準 5 点セット」による企画通り
の立ち上げを推進していく。
売上については、中計の想定を下回る懸念があるので、必要な対策を検討していく。

以上